

横浜国大工学部第四寮 寮歌

作詞：国広 理朗（24年 造船）
作曲：石井 春男（22年 機械）
編集：柳田 圭一（33年 造船）

一 流るる雲に行く水に 紅深き木群（こむら）にも
ああ暮れ易き若き日の
夏（うたげ）の夢をしのばすや
遊子（ゆうし）わびしき影長し

二 鐘楼（しょうろう）深く緑して 栄枯の夢やいましばし
源家（げんけ）ゆかりの鐘の音も
朝夕（あしたゆうべ）の訓（さと）に
銀燭（ぎんしょく）ゆるぐ我が住家（すみか）

三 タバ沈黙（しじま）に暮れゆけば 鳴くや千鳥の悲聲へ
荒磯（あらいそ）に砕（く）る波（なみ）に聞け
永遠（とわ）の真理（まこと）その声を
ゆきて帰らぬなむさを

四 紫（むらさ）けむる曙（あけぼの）の 露（つゆ）もしてこの下草（したくさ）も
踏（ふ）みてしまきてなまよえは
心の雄琴（おとこ）澄（すみ）みてなる
夢（ゆめ）よしばしは まどかなれ
夢（ゆめ）よしばしは まどかなれ